

開 会 式



# 開会宣言

川内市議会原子力サミット実行委員会

副委員長 川内市議会副議長 岩下 早人

会場の皆さん、おはようございます。ようこそ薩摩の国、川内市にお越しいただきました。心から歓迎を申し上げます。  
ただいまから、第3回全国原子力発電所立地議会サミットの開会を宣言いたします。

## 会長あいさつ

全国原子力発電所立地市町村議会議長会

会長 柏崎市議会議長 高橋 照 男

皆さん、ご苦労さまでございます。本日、ここ川内市におきまして、第3回全国原子力発電所立地議会サミットが開催されるに当たりまして、主催者を代表しまして一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、原子力発電所及びそれに関連します施設等が立地し、またこれから立地されます計画がなされております全国各地の議員の皆さんから、このように大勢お集まりいただきました。主催者を代表して、皆さんに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回のサミットの開催に当たりましては、地元川内市の議長さんを始め、議会事務局、市の職員の皆様その他大変なお骨折りをいただきました。厚く御礼申し上げます。

また、本日は、ご多用の中、地元川内市の市長さんを始め、鹿児島県知事様、鹿児島県議会議長様、その他、国からは各関係省庁の皆様、国会議員の先生方、また県議会議員の皆様、そのほか大勢のご来賓をお招きし、お越しいただいております。ありがとうございました。

今や、世界は深刻な地球環境問題に直面しております。その中であって、アジア諸国等を始めとする発展途上国といわれる国々では、増大するエネルギー需要を主として化石燃料に依存しているのが現状であります。

こうした中に、我が国においては、原子力発電所をエネルギー・セキュリティの観点と地球温暖化防止の対策の一つとして位置づけ、2010年までに10基から13基の原発の新設あるいは増設が計画されておるところでございます。しかし、原子力発電所を取り巻く環境は、私が申し上げるまでもなく、極めて厳しいものがあると言わざるを得ません。廃棄物の処理の問題、核燃料サイクルの帰結問題、さらにはたび重なるトラブルの発生など、決して、原子力政策が順調に進んでいるとは思われません。

また、去る9月には、アメリカにおいて同時多発テロ事件も発生し、このことは地域住民に一つの不安を与えるものとなっていることも、また事実でございます。こんな矢先、浜岡原発の配管の破断問題も発生し、住民の原子力に対する信頼感を損ないかねないのも事実であります。これら一連のことが、一昨日行われました三重県海山町における住民投票の結果にもあらわれたのではないかと、このようにも思うところでございます。

国のエネルギー政策の一環をなす原子力政策は、地域住民の理解と協力なくして成り立つものではありません。我々立地地域住民が誇りと安心をもって発電所と共生できる生活環境をつくることこそ、急務でなかろうかと思うところでございます。

このような中で、今回の第3回サミットが開催されるわけでありまして。それぞれの分科会あるいは全体会において十分なる議論を重ねていただき、当面する課題や諸問題を大いに論じていただきたいと思うわけでございます。

また、国におかれましては、この議論に真摯に耳を傾けていただき、国の今後の政策展開に十分反映していただきたいことも切望してやまないものであります。

最後に、今回のサミットが、原子力発電所の現状と今後のあり方について、いま一度原点に立って議論がなされ、我が国におけるエネルギー政策が真に国民的なものになることをご期待申し上げます。主催者を代表してのあいさつにかえさせていただきます。ありがとうございました。

## 実行委員長あいさつ

川内市議会原子力サミット実行委員会

委員長 川内市議会議長 原 口 博 文

皆さん、おはようございます。

昨夜はおそらく鹿児島県の芋焼酎でゆっくりお休みなされたと存じます。多分、朝起きられまして、ああ川内は寒いなどお感じになられたんじゃないでしょうか。けさは、川内市を二分する川内川に霧が立ち込めまして、その霧がこの寒さを起こしたようであります。あと1時間もしますと、おそらく天候も我々のこの大会を祝福する天気になってくると、こういうふうに感じます。

今回、第3回の全国原子力サミットが当市で開催されるに当たりまして、川内市議会を代表いたしまして、一言、歓迎のごあいさつを申し上げたいと存じます。

本日は、ご多忙の中、森川内市長、鹿児島県からは和田出納長、鹿児島県議会からは溝口県議会議長、そして、国の方から経済産業省、資源エネルギー庁、文部科学省から、それぞれ幹部の皆様方のご臨席をいただき、このように盛大に原子力サミットが開催されますことに心から感謝を申し上げます。

また、会員の皆様、そして、電気事業者の皆様、長い道のりを、ようこそ南の鹿児島・川内にお越しいただきました。衷心よりご歓迎と感謝を申し上げます。

ご案内のとおり、本市は7万4,000人の田園都市であります。前回の東京のサミットと違いまして、分科会場も別会場となり、あるいはホテルも分散宿泊となりまして、何かと皆さん方にご不自由をかけることになるとは思いますが、私どもは7月に実行委員会を立ち上げまして、高橋会長、茂野事務局長のご指導をいただきながら本日を迎えることができました。精いっぱい準備をしたつもりでおります。皆様方をお迎えして、南九州らしい気配りと心のこもった対応を心がけてまいりたいと存じておりますが、先ほども申し上げましたとおり、不行き届きの点がたくさんあるかもしれません。ぜひ、お許しをいただきたいと存じます。

今回、こうして住民を代表する我々議会人が一堂に会しまして、立地地域の防災対策と安全確保や地域振興等の諸課題について十分な討議をしていただくことは、まことに意義深いものがあると思います。二日間にわたる今回のサミットが実り大きい大会となりますよう、ご期待を申し上げまして、歓迎のごあいさつといたします。ありがとうございました。

## 来賓祝辞

川内市長 森 卓 朗

皆さん、おはようございます。ただいまご紹介いただきました、地元川内市長の森卓朗でございます。

北は北海道から南は九州まで、全国各地から皆様方のご来川を仰ぎ、第3回目の全国原子力発電所立地議会サミットが本市で開催されますことは、まことに光栄であり、7万4000市民とともに、皆様のご来川を心から歓迎申し上げます。

また、本日のサミットのために、大変ご多用中にもかかわらず、鹿児島県知事代理として和田出納長様、また鹿児島県議会議長の溝口様、また衆議院議員内閣府副大臣松下忠洋様のご令室様、そして、鹿児島県議会議員、川内市出身の外菌県議もご臨席をいただきまして、このように盛大に開催されますことは、まことにご同慶に堪えない次第であります。

本市は、川内川を初め、豊かな自然と可愛山稜や薩摩国分寺跡に代表されます古くからの歴史を有する町であり、また、古い歴史はもとより、現代科学の粋を集めました原子力発電所と、川内川を挟んで火力発電所が立地するという南九州一のエネルギー供給地としての発展をいたしておるところでございます。

また、さらにはIT関連企業であります世界の京セラと言われます鹿児島川内工場が立地いたしておりますし、また、今や世界のベストセラーと言われますハリー・ポッターという児童の本がございますけれども、その本の用紙を製造する中越パルプ川内工場が立地しております田園工業都市でもございます。ちょうどことは市制を施行いたしまして61年になる町でもあります。

現在、さらなる発展を目指しまして地域振興策を展開中でございます。第4次川内市総合計画を策定いたしまして、平成13年度から10カ年のまちづくりの基本方針を定めたとろでございまして、本年度が初年度に入るわけでございますが、人・まち輝く「水景文化都市」を目指して、頑張っていこうとしている町でもございます。

その中でも、本市の大きな4大プロジェクトというものがございます。すなわち、もう昨日川内にお入りになりました皆さん方はお気づきでございますかもしれませんが、九州新幹線鹿児島ルート、今、建設工事が一生懸命進められておりまして、駅舎の整備等も始められておるところでございます。

また、南九州西回り自動車高速道の整備が、今、川内道路というのが、鹿児島から整備が進められておるところでございまして、平成10年代の末には、川内までは鹿児島の方から高速自動車道が供用開始をされることになっておるところであります。

それから、重要港湾の川内港というのがございます。水深マイナス12メートル、3万トンのバース1基と、5,000トンバースが2基ございます。その他、2,000トンバースもございますが、中越パルプのチップを北米、オーストラリアあるいは中国から、毎日のように運んでおる港があるわけございまして、重要港湾の指定を昭和45年に受けたところでございます。

また、先ほど、原口市議会議長の方からのごあいさつの中でもございましたとおり、九州三大長流河川の川内川というのが市街地を二分して、北と南の方に町があるわけでございますが、この川内川、昭和40年代から50年代の前半にかけては、大変な暴れん坊川でございまして、九州で大雨といひますという、この鹿児島の川内川が氾濫し、堤

防は決壊して、大変な被害を受け、災害救助法の適用を受け、自衛隊が参りまして救助作戦を展開してくれた、この大きな川内川がございます。

現在、国土交通省の手によりまして、一生懸命市街部の改修が進められておりまして、市内にポンプが30基ぐらいございます。日本一と言われますという、こういう水を市街地からくみ出すポンプがたくさん備わっていることでは日本一ではなかろうかと思っておるところでございます。現在、川内川の改修工事が着々と進められている、こういう大きな工事が、事業が展開されておる町でございます。21世紀には、住民が安心して、安全に暮らせるような町を目指してまいりたいと、今一生懸命施策を展開しているところでございます。

さて、全国の原子力発電所が立地している市町村議会の議員の皆様が一堂に会され、本日からあすまでの2日間、エネルギーの確保、環境保全、原子力と地域共生など、当面の原子力行政の諸課題について、お互いの意見交換をされますことは、まことに時宜を得たものであり、心から皆様方に敬意を表する次第でございます。

我が国はご承知のとおり、エネルギー資源の少ない国であります。2度にわたるオイルショックを経験しながらも、高度成長を続け、ここに来て、地球温暖化の問題から二酸化炭素排出削減という大きな命題を抱え、さらにはアメリカにおける同時多発テロによります世界同時不況ともいふべき現在の状況を見ますとき、国の発展のためには、生命線でもありますエネルギーの確保ということは重要なことであり、私どもは改めてエネルギーの大切さを再認識するところであります。

本年、経済産業省総合資源エネルギー調査会におきましても、長期エネルギー需給見通しを取りまとめられ、その中で、2010年までには原発を10基から13基増設することが必要とわかれておるところであります。これまでの原子力発電所におけるトラブルや動燃やJCOにおける事故、データ改ざんといった不祥事などによりまして、国民の原子力に対する信頼の失墜といった状況を招いているところであります。

また、同時多発テロによる原子力発電所の危機管理の問題がクローズアップされるなど、こうした社会情勢の中で、原子力発電所は、日本のエネルギーの根幹と位置づけられながらも、新規立地は遅々として進まない状況にあることは、皆様ご案内のとおりでございます。

しかしながら、全く対策が進んでいないわけではありません。まず、一昨年のJCO臨界事故を契機として制定されました原子力災害対策特別措置法については、事故時の迅速かつ確実な対応を図るために、現在各地でオフサイトセンターや緊急時被ばく医療施設などの建設が進んでいるところであります。その施設を使った防災訓練も実施が始められましたけれども、まだまだその緒についたばかりでございますので、緊急時の対応を、より実効性のあるものにしていくためには、今後ますますその機能を充実させていく必要があると痛感いたしているところであります。

また、原子力発電所、原子力発電施設立地地域の振興に関する特別措置法の制定によりまして、我々原電所在市町村が恒久的な地域振興策として長年待ち望んでいたものであり、先般、福井・島根両県におきまして初めての地域指定がされたことは、皆さんご存じのとおりでございます。

今後、すべての立地道県で地域振興計画の策定等が行われ、事業が展開されるわけですが、対象事業の取り扱いにつきましては、各県によって、判断があるいは採択基準がまちまちにならないように、採択基準の明確化を願うものであり、今後この地域振興特別措置法が実効ある内容と成果が上がるように、大いに期待しているところであります。

21世紀という新たな時代を迎え、だれもが光輝く未来を展望しておられることと存じますが、最近の世界情勢を見ますと、暗いニュースのみが飛び交っているように思います。そういう中で、日本経済の持続的な発展と豊かな国民生活を実現するためには、その基盤としてのエネルギー、特に電力の安定供給が何よりも大切であると存じます。特に、原子力発電が果たす役割は、今後も極めて重要であると存じます。

先ほども申し上げましたとおり、原子力は、さまざまな問題を抱えておることは事実ですが、このサミットを通じまして、議員の皆様方がお互いの意見を交換し、そして論議を交わされて、実り多き会議になりますように、ご期待を申し上げる次第であります。そして、今回のサミットで得られました成果を、それぞれの市町村にお持ち帰りいただき、原発立地市町村の21世紀が夢輝く未来となりますように、ご活躍されますことを期待申し上げます。

最後に、原子力発電所立地地域の市町村のさらなるご発展と、ここにお集まりの議員の皆様方、電力関係の皆様方、ご来賓の皆様方のご健康と今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。祝辞といたします。本当にきょうはおめでとございました。



## 来賓祝辞

鹿児島県知事 須賀 龍郎

〔出納長 和田正道 代読〕

皆様、おはようございます。私、鹿児島県の出納長の和田でございます。本日は、第3回のサミットを鹿児島県の川内市、ここにおいて開催いただき、まことにありがとうございます。皆様方を心から歓迎申し上げます。

エネルギーの安定的な確保、供給の問題については、非常に重要な問題であり、また、一方では非常に厳しい、難しい問題でありますけれども、本日のこのようなサミットなどにおける論議を通じまして、これらの問題の解決の方へ努力していかねばいけないというふうに考えております。

本日は、知事がどうしても欠かせない用務がございまして、私の方から知事の祝辞を皆様方にお伝えさせていただきたいと思っております。

### 祝辞。

本日ここに、第3回全国原子力発電所立地議会サミットが、関係者多数ご臨席のもと盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。また、ご参加の皆様におかれましては、原子力発電所や原子力関連施設が立地する自治体におきまして、地域の代表としての重責を担い、それぞれの地域の振興発展や住民福祉の向上に日ごろからご尽力されておりますことに対し、深く敬意を表します。

さて、当県におきましては、九州電力川内原子力発電所1号機が昭和59年に、また同じく2号機が昭和60年にそれぞれ営業運転を開始しておりまして、平成12年度までの累計発電電力量は、約2,000億キロワットアワーに達しております。

当県の総発電電力量は、平成12年度の実績で約145億キロワットアワーですが、そのうちの約8割は原子力発電によるものであります。また、当県の総発電電力量の約4割は県外に移出されている状況にあります。

原子力発電は、国内に有力なエネルギー資源を持っていない我が国にとりまして、経済活動や国民生活の安定を支える上で、今後とも必要不可欠なエネルギーであり、また、環境負荷の低減にも寄与するものと理解いたしております。そのためには、安全運転の実績を積み重ねるとともに、放射性廃棄物の処理システムを確立することなどが極めて重要であり、このようなことにより、国民の不安を解消し、信頼を得ながら原子力の利用が図られていくことが最も重要であると考えております。

今回のサミットにおきましては、基調講演や記念講演のほか、プルサーマルと核燃料サイクル、原子力と地域振興など、5つの分科会が予定されると聞いておりますが、このような問題につきまして、さまざまな立場から議論を深めることは、まことに有意義であり時宜を得たものと思っております。

このサミットが所期の目的を達成され、大きな成果が得られますことをご期待いたしますとともに、皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。

平成13年11月20日

鹿児島県知事 須賀 龍郎

代読させていただきました。本日は本当におめでとうございました。

## 来賓祝辞

鹿児島県議会議長 溝口 宏二

祝辞。

本日は、全国からたくさんの皆様のご参加のもとに、第3回全国原子力発電所立地議会サミットが開催されるに当たりまして、地元この川内市選出の同僚議員外菌勝蔵さんも一緒に参加いたしておりますが、鹿児島県議会議長を代表して、私から一言、お祝いを申し上げます。

このサミットの開催に当たりまして、また、日ごろからご尽力を賜っております全国原子力発電所立地市町村議会議長会の高橋会長様を初め、関係者の皆さんのかねてのご労苦に対し、この場をお借りして、心から敬意を表します。

エネルギー資源の乏しい我が国において、国民生活の維持、向上と社会経済の発展に必要なエネルギーを確保することは、極めて重要な課題であり、各種エネルギーの開発について種々の対策が講じられているところです。中でも、主要な電源である原子力発電は、燃料の供給及び価格の安定性にすぐれて、発電過程において二酸化炭素を排出しないなどの環境特性を持っており、エネルギーの安定供給の確保や環境保全を図る上からも大きな期待をされているところです。

一方、原子力発電所などの原子力施設は、放射性物質を取り扱う施設であり、安全を確保し、厳重に管理する必要がありますことは、言うまでもありません。

しかしながら、茨城県東海村のウラン燃料加工施設において発生いたしました臨界事故を始め、種々の事故が発生しており、せんだつても、静岡県浜岡町の中部電力浜岡原発1号機において、配管破断事故が発生し、地元住民はもとより、国民に大きな不安が広がりました。

この後の分科会において、原子力の防災対策と安全確保の問題を始め、種々なテーマについて討論が予定されておりますが、原子力発電所を有するこの川内市において、全国各地の皆様が、それぞれのお立場から意見や情報を交換されますことは、まことに意義深いものでございます。

また、私も全国都道府県議会議長会においても、原子力発電所が立地する13の道県でもって議長協議会を構成いたしておりますが、平成11年9月のあのJCOの臨界事故直前は、私もその会長を仰せつかっておりました。

原子力施設とその立地地域との共存共栄を図る上からも、地方自治体に原子力行政に対する法的権限がない以上は、国に対して、安全対策はもとより、防災特別法の制定など、さらにさらにその充実について求めるべきは求め、発言すべきは大いに発言すべきというふうに考えます。

ネバー・セイ・ネバー、決して起こらないとは決して言うべきではないと申します。信頼される原子力発電の将来に関して、今後とも、相携えて取り組んでまいりましょう。

どうか、お集まりの皆様方におかれましては、今後とも、地域住民の安全の確保と福祉の向上並びに地域の振興発展のために、より一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本日のサミットが大きな成果をおさめますとともに、皆様のますますのご健勝、さらなるご活躍を祈念を申し上げて、ごあいさつにかえます。

平成13年11月20日

鹿児島県議会議長 溝口 宏二

ご清聴、ありがとうございました。

## 来賓祝辞

内閣府副大臣・衆議院議員 松下 忠洋

皆様、おはようございます。本日は第3回サミット、まことにおめでとうございます。

私、ただいま紹介いただきました松下忠洋の家内でございます。松下が国会開催中でございますので出席できず、申しわけございません。皆様にはくれぐれもよろしくと申しておりました。

本日はメッセージを預かってまいりましたので、読ませていただきます。

第3回全国原子力発電所立地議会サミットのご盛会をお喜び申し上げます。日ごろから我が国のエネルギーの確保に、また環境保全の確保にと、努力をされておられます皆様のご尽力に深く敬意を表します。

本日は、原子力に関係のある施設の立地または立地しようとする自治体の方々が集われて、我が国のエネルギー政策に理解を示し、地域振興、安全性、使用燃料、防災対策等の問題、課題を、地域の代表や自治体の職員の方々が、国、事業者、自治体に率直な意見を述べられ、公平な討論と情報交換を行うことを目的とし、21世紀のエネルギー確保、原子力と地域共生をテーマとして、このサミットが開かれますことの意義を深く認識され、活発な議論、意見の交換をお願いいたします。

このサミットを通して、我が国の21世紀のエネルギー問題に明るい光が見えるようなサミットになりますことをご祈念し、本日のご参席の皆様方のご健勝、ご多幸をお祈りいたします。

内閣府副大臣・衆議院議員 松下 忠洋

本日はおめでとうございます。

## 来賓祝辞

鹿兒島県議会議員 外 菌 勝 蔵

皆様、おはようございます。

古い歴史と文化薫る川内に足を運んでいただきまして、大変ありがとうございます。

その昔、瓊瓊杵尊が祭ってある可愛山陵、そしてまたその昔、島津を征伐に来た豊臣秀吉がこの川内まで足を運んで和睦をした泰平寺、そしてあの明治の維新、そしてあの西南の役で城山の露と消えた西郷隆盛が、あの西南の役から1週間前にこの川内の高城に来て狩をやったという、大変古い歴史のある川内市でございます。

ちょうど2年前に鹿兒島県を襲った大変な台風がありまして、鶴の町、出水の町が3日間、電気もない、本当に暗闇の世界が3日間続いた日がありました。そのときに一番言われたのが、電気のありがたさでありましたし、何で川内市に原子力発電所があるのに、どうして我が町は3日間も停電になって、暗い生活を余儀なくされなければならないかということを中心に大きく新聞等が取り上げました。改めて原子力発電所のありがたさがわかったような話が論議されてから2年間、またああいう事件が起こりまして、国民が非常に不安を思っております。

きょう、こうして各全国から集まった皆さん方の声が、必ず、地方分権の一議員として、国に必ず聞こえていく、届いていく、そういう分科会であって、そして、皆さん方の声がしっかりと我が日本国民に原子力のありがたさと電気のありがたさをしっかりとこの2日間を通じて論議していただいて、しっかりと国に大きな声で電気のありがたさと原子力のありがたさを、どうか勉強して、そういう成果をしっかりと出していただきたいと思います。

どうか、会が済んだときには温泉もありますし、非常にいい町でございます。どうかしっかりと川内の町を見て行って、そして、地方に、そしてふるさとに帰ったときに、いい川内市であったことをぜひ紹介していただいて、また、川内市に来ていただくことをお願い申し上げます、きょうのごあいさつにかえさせていただきます。

本日はありがとうございました。